vol.52

The News Letter

2025 WINTER

一般社団法人 日本歯科審美学会

General Incorporated Association Japan Academy of Esthetic Dentistry

JAPAN ACADEMY OF ESTHETIC DENTISTRY

発行人／小峰 太
編集／一般社団法人日本歯科審美学会
広報委員会
制作／三宝印刷株式会社

一般社団法人 日本歯科審美学会
www.jdshinbi.net/

巻　頭　言

審美歯科の現在地ー学術大会を通して見えた“次の標準”

一般社団法人日本歯科審美学会　副理事長　小川　匠

このたび盛会のうちに終了した第36回学会学術大会は、多くの会員の皆様のご協力のもと、全国から830名を超える参加者を迎え、極めて活気に満ちた大会となりました。大会長として、多くの会員の皆様にご参加・ご協力をいただいたことに、心より御礼申し上げます。

本大会では，臨床・研究・教育の各側面から審美歯科を捉えるとともに、インプラント治療、ホワイトニング、補綴・修復治療、さらには顎機能や咬合といった関連分野に至るまで、審美歯科を取り巻く多様な領域の「現在地」を共有することができました。症例報告、基礎的検討、教育的視点を含む発表が相互に交差し、分野横断的な議論が展開されたことは、本学会の大きな特長を改めて示すものであったと感じています。

近年、審美歯科はデジタル技術の進展や材料科学の発展により、治療の再現性と予測性を大きく向上させてきました。本大会においても、CAD/CAM技術やデジタルワークフローを基盤とした演題が数多く発表され、これらがすでに特別な手法ではなく、臨床における一つの標準として定着しつつある現状が示されました。

一方で印象的であったのは、単なる技術紹介にとどまらず、「どのように評価し、どのように使いこなすか」という視点が共有されていた点です。審美性、機能性、生体親和性をいかに調和させるかという本質的課題に対し、症例報告や基礎的検討を通じて検証しようとする姿勢は、まさに現在の審美歯科が成熟期に入りつつあることを物語っています。

審美歯科は患者の満足度と直結する領域であり、その責任は決して小さくありません。だからこそ、我々専門家には高度な技術力だけでなく、科学的根拠に基づく判断力と倫理的配慮を備えた臨床が求められます。本学会は、こうした「次の標準」を会員間で共有し、教育・啓発活動を通じて広く発信していく役割を担っています。

今後も学会活動を通じて、会員が学び、交流し、発信できる場を充実させるとともに、次世代を担う人材の育成に力を注いでまいります。本ニュースレターが、審美歯科の現在地を見つめ直し、次の一歩を考える契機となれば幸いです。

第37回日本歯科審美学会学術大会のご案内

日本歯科大学生命歯学部歯科理工学講座　大会長 新谷明一

2026年度に開催される第37回日本歯科審美学会学術大会は、「Aesthetics follows function－美は機能から生まれる」をテーマとして、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されます。本大会のテーマは、歯科審美の根幹を形作る基本原理を改めて見つめ直し、現代歯科医療の進歩とともに多様化した審美観を再統合する意図を込めています。外観の美しさだけを追い求めるのではなく、生体機能、不変的な咬合理論、材料学的合理性、さらには治療計画の整合性までを包含した包括的な“審美”の再定義が求められている時代に、本テーマはその中心的な価値観を象徴するものを目指しております。

歯科医療、特に審美性については、患者からの要求が多様化し、治療の幅も大きく広がりました。しかし、どれほど表面的に美しい補綴装置であっても、生体との調和や咬合の安定、長期的な生体適合が確保されなければ、真の“美”は達成されません。歯科医療の根底にある「機能を支える構造の美しさ」という普遍的概念は、デジタル化や材料革新が進む現在においても揺らぐことはなく、むしろその重要性はさらに増しているといえます。今回の学術大会は、この“美と機能の不可分性”を最新の科学的エビデンスに基づいて深く議論し、未来の審美歯科の方向性を見定

国立オリンピック記念青少年総合センター

める場となることを目指しています。
大会では、審美と機能を専門的かつ実践的に議論できる多様な講演や発表を企画しています。審美補綴の長期予後や、力学的整合性を前提とした補綴設計、そして新しい材料がもたらす可能性など、臨床と基礎研究が交差する視点を提供する予定です。また、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士がそれぞれの専門性と経験を持ち寄り、審美補綴における多職種連携の重要性、デジタルワークフローの実際、審美を支える歯周・口腔清掃管理の役割など、チーム医療としての審美歯科の在り方を掘り下げて議論します。さらに、本大会では若手臨床家や研究者の積極的な交流も重視しています。一般口演やポスター発表の場を通じて、症例報告から基礎研究、新規技術の提案に至るまで多岐にわたる研究成果が披露され、次世代を担う若手の挑戦が大いに奨励されることになります。特にデジタル技術やAIの導入が急速に普及する中で、新しい視点や柔軟な思考をもつ若手が活躍する場は重要であり、学会全体の活力にも直結すると考えております。
今回の会場である国立オリンピック記念青少年総合センターは、渋谷区に位置しながらも、緑に囲まれた静かな環境を備え、学術的な議論に集中できる空間として最適です。会場の広く開放的な雰囲気は参加者同士が自然に交流しやすく、偶然生まれる対話や議論から新たな研究テーマや臨床連携が生まれることも期待されます。大会初日の夜には、京王プラザホテルにて懇親会を予定しております。学術的な議論から少し離れ、同じ目的を持つ仲間たちと自由に交流できる貴重な場です。これまで学会を支えてきた先輩方との再会、新しい世代との出会い、異なる専門職との意見交換など、ここでしか得られない刺激や学びが数多くあります。審美歯科は、専門的な知識や技術だけでなく、人と人との信頼関係やコミュニケーションによって大きく進化してきた領域でもあります。懇親会は、そのつながりをさらに深め、明日からの臨床に新たな視点を持ち帰るための場となることでしょう。
第37回学術大会は、歯科審美に携わるすべての人々が、美と機能の本質を共有し、次の時代へ向けた臨床思想をともに築き上げる絶好の機会となるはずです。新しい知識、新しい人とのつながり、そして新しい臨床のヒントが詰まった二日間をお届けできるよう、大会長および準備委員会が一丸となって準備を進めています。
2026年の秋、東京で皆さまとお会いできますことを、心より楽しみにしております。

【テーマ】Aesthetics follows function―美は機能から生まれる
【会　期】2026年10月31日（土）～11月1日（日）
【会　場】国立オリンピック記念青少年総合センター（東京・渋谷）
【大会長】新谷明一（日本歯科大学生命歯学部 歯科理工学講座 教授）
【準備委員長】三浦大輔（日本歯科大学生命歯学部 歯科理工学講座 講師）

メイン会場：カルチャー棟　大ホール

大ホールのホワイエ

海外学会参加報告

AAAD General Meeting参加報告

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科　田上直美

２０２５年１１月２２日、日本歯科審美学会が加盟しているAsian Academy of Aesthetic Dentistry（AAAD）のGeneral Meetingがマレーシアの首都クアラルンプールにて開催され、若林一道理事と田上が参加いたしました（写真１）。

AAAD執行部は、この2年間はEdward Jauren Hu先生（台湾）がPresidentを勤め、日本歯科審美学会から若林理事と田上がそれぞれAssistant SecretaryとTreasurerとして参画しておりました。本年の会議は今期役員の任期満了期にあたり、次期の会長としてNurul Huda Hasan先生（マレーシア）が、若林理事はAssistant Treasurerとして選出され、新体制となりました。理事や国代表による討論後、出席者は併催のDentistry Unpluggedのガラディナーにご招待いただき、その中で会長職の継承式も行われました（写真2）。

そのDentistry Unpluggedですが、驚愕の学術大会でした。会場はクアラルンプール郊外にあるMITECという巨大な国際会議場の大ホールで、センターステージ仕様（写真3・ステージ上と全ての壁面にモニターがある）のため、演者は壇上を歩き回りながら全方向に向かって喋らなければならないという、日本ではなかなかお目にかかれないスタイルでした。会場は満席で、東アジアや東南アジアからはもちろん、インドやパキスタンなど南アジアの国々からも多数参加されていたのが印象的でした。参加費は約5万円と高めではありますが、どの国からも若い参加者が多く、質疑応答にも積極的で、全体が活気に満ちあふれていました。大会もディナーも演出はド派手で、ステージ上には花火が上がり、大臣や王女様がご挨拶くださり、企業展示で車も展示されるなど、歯科の高いステータスをひしひしと感じました。ちなみ

写真1　AAAD General Meetingの模様

写真2　ガラディナーで執り行われた会長継承式

写真3　Dentistry Unpluggedのメインステージ

に、ガラディーナーにはドレスコードがあったため、日本からの2名も正装で参加致しました（写真4）。

次のAAAD大会の予定はまだ決まっていませんが、国際渉外委員会からのアナウンスがありますので、特に若い先生方、参加を検討なさいませんか？きっと素晴らしい出会いがあると思いますよ。

写真4　ドレスコードありのガラディナーに参加するJAED役員２名

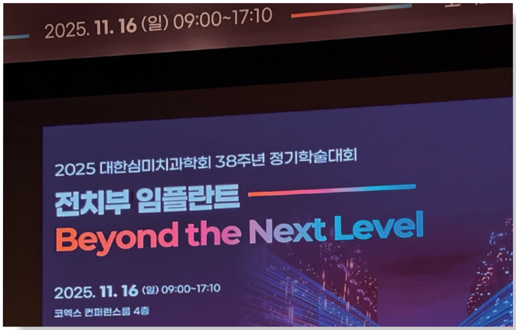
2025年韓国歯科審美学会（KAED）学術大会に参加して

大阪大学大学院歯学研究科再生歯科補綴学講座　若林一道

2025年11月16日、KIM JINHWAN会長のもと、第38回韓国歯科審美学会（Korean Academy of Esthetic Dentistry）学術大会が、ソウルのCOEXで開催されました。

日本歯科審美学会（JAED）は、韓国歯科審美学会（KAED）と姉妹協定を締結しており、演者の交流を行っています。2025年度はJAEDからKAEDに演者の派遣を行う年でしたので、演者として、小峰太理事長が講演をされました。その他の出席者には、私と国際渉外委員から中村隆志理事、伊藤恵吾幹事が参加しました。

KAED学術大会のメインテーマは「Beyond the Next Level」で、上顎前歯部の審美インプラント補綴、審美歯科治療で求められる精度についてなど、インプラントやデジタル関係の講演が多



今年の学会テーマ

小峰理事長の講演。来年のIFED大会ではAIによる同時通訳を行う予定で、そのトライアル風景。

く行われていました。その他、研修医の先生方の症例発表および表彰などが行われました。小峰理事長は「Zirconia Restorations:Current Trends and Evidence-Based Protocols」というタイトルで、ジルコニアの理工学的解説や、エビデンスに基づいた補綴歯科治療について講演をされました。

2026年11月13-15日には、ソウルのCOEXにて国際審美学会（IFED）が開催されます。大会ではAIによる同時通訳を行う予定でそのトライアルが行われ、画面上や携帯電話で確認することができます。翻訳は100%ではありませんが、スライドを見ながらですと、より理解しやすいので、国際学会において、講演する側、聞く側ともに参加しやすくなるものと思われます。

2007年のIFEDソウル大会では日本から150名の参加があったそうで、来年の大会では、それを超える200名以上の参加を期待していますとのことでした。是非、皆様ご参加ください。

KAED の認定医やマスターに送られる盾

認定医の授与式には家族も招待され、栄誉を讃えられます。

American Academy of Cosmetic Dentistry 認定医への道

ひとみデンタルクリニック　権藤ひとみ

2025年1月付でAmerican Academy of Cosmetic Dentistry（AACD）認定医を取得、4月のAACDサンディエゴ大会で認定授与式に参加してまいりました。AACDは日本歯科審美学会（JAED）と姉妹協定を結んでおり、米国を中心に80カ国の会員から構成される世界最大級の審美歯科の学会です。

日本では30数年ぶりの認定医とのことです。新たなAAACD（Accredited Member of AACD）9名の内訳は歯科医師7名、歯科技工士2名で、米国外3名、女性7名でした。

認定の要件ですが、認定や評価基準についての2つのワークショップを受講後、筆記試験に合格すると症例を提出する権利が得られます。その後、5つの規定の症例を提出してすべてに合格すること、それに続く口頭試問に合格することが求められます。尚、歯科技工士の場合、提出症例は3つです。

筆記試験は多岐選択式で制限時間4時間、200問（歯科技工士は100問）で、出題範囲はスマイルデザイン、審美歯科に関連する補綴、保存修復、接着歯学、歯科材料学、咬合、インプラント等多岐にわたります。特に咬合についてはピーター・ドーソンの著作が参考図書として推奨されています。

提出する規定の5つの症例のうち、2症例は補綴（ベニア/クラウン）、2症例はコンポジットレジン（CR）修復、1症例は欠損補綴で、すべて審美領域の上顎前歯部が対象です。

4月5日のAACDガラパーティにて認定授与式

- Case Type 1　Six or More Indirect Restorations
（上顎前歯6歯を含む間接修復）
- Case Type 2　One or Two Indirect Restorations
（上顎切歯1または2歯の間接修復）
- Case Type 3　Tooth Replacement
（ブリッジまたはインプラントによる欠損補綴）
- Case Type 4　Anterior Direct Resin
（クラスⅣまたは正中離開歯のCR修復）
- Case Type 5　Six or More Direct Resin Veneers
（上顎前歯6歯を含むCRのダイレクトベニア）

これらの症例については、術前、術後、それぞれAACDが規定する12種類の規格写真（スマイル時の顔貌、スマイル時の口元、規定の口腔内写真）と必要部位のレントゲンおよび症例報告書の提出が必要です。写真はJpgは不可、加工のできないRawデータで提出が求められます。各症例については、AACDの44項目からなる認定評価基準に則り、減点法で採点され合否が判定されます。筆記試験合格から5年以内に5症例の合格ができなかった場合、筆記試験を再度受けて挑戦となります。合格判定済みの症例は１回だけ次の5年間へ持ち越しが可能です。

5症例すべてに合格したら、口頭試問です。提出症例にについて質問されるほか、口頭試問用に用意されたケースが提示され、治療計画の作成が求められます。その治療計画についてディスカッションや追加質問が適宜行われ、後日合否判定が通知されます。合格したら、晴れて認定医となります。

私は2年に１回はAACDの大会に参加し、学術講演や実習付研修を受講し研鑽してきました。会員用にオンライン受講できるコンテンツもあります。また、メンター制度があり、提出症例の選択や治療経過の過程でメンターに相談することができます。的確な助言をしてくださった私のメンター、Dr.Elizabeth Bakemanには感謝の言葉しかありません。

AACDでは認定への道のりを journeyと呼んでいます。短くもたやすくもありません。私は10年かかりました。

未来の審美歯科を担う歯科医師、歯科技工士の皆様には是非この素晴らしい journeyへの挑戦をお勧めしたいと思います。

認定医の症例はShowcase of Excellenceとして会場に掲示される

AAACD Class of 2025の9名、右端は認定審査委員長

2025年度学術講演セミナー（5月25日開催）を終えて

学術講演統括委員・歯科医師部門学術講演委員会委員長　石川明子

令和7年度第1回学術講演セミナーを令和7年5月25日（日）に開催しました。今回も例年同様Webによるライブ配信方式で行いました。

企画テーマは、一連の極めるシリーズ「最新のホワイトニングを極める」とし、演題1では、高見沢俊樹先生（日本大学歯学部保存学教室修復学講座）に「ホワイトニング　アップtoデート」を、演題2では、植松裕美生生（日本歯科大学附属病院歯科衛生科）に「歯科衛生士が知っておきたい最新のホワイトニング」をご講演していただきました。

高見沢先生からは、現在市販されているオフィスホワイトニング剤とホームホワイトニング剤の成分や効果、それぞれの特徴について解説がおこなわれ、臨床写真を提示しながらその効果について説明されていました。また植松先生からは、歯科衛生士の臨床における領分・歯科衛生士ができることとできないこと、また今話題になっている医療ホワイトニングとセルフホワイトニングの違いを解りやすく説明していただきました。さらに日本歯科審美学会の歯科衛生士の獲得資格であるホワイトニングコーディネーターや認定士についても解説しました。Web配信でしたが、講演の途中からチャットによる多くの質問が寄せられ、講演後は臨場感あふれる活発な質疑応答になりました。

オンデマンドではなかったものの事前登録者数625名で、この数はここ数年の学術セミナー開催における最高の登録者数となりました。今後もさらに多くの視聴者獲得につなげるセミナーになることを希望します。

協賛企業もULTRADENTO JAPAN（株）、ホワイトエッセンス（株）、（株）ジーシーの3社からご協力を得ることができ、厚くお礼申し上げます。

今後、新年度の学術講演委員会に申し送り事項としたいと思います。

セミナー報告

第64回・第65回ホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験の開催報告

ホワイトニングコーディネーター委員会　新妻由衣子

第64回ホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験を2025年7月20日に日本歯科大学（東京）にて、第65回を同年10月5日に福岡国際会議場（福岡）にて開催しました。

第64回は296名、第65回は166名が受講し、「歯のホワイトニング基礎編」「歯のホワイトニング実践編」「ホワイトニングにおけるカウンセリングとケア」「こんなときどうする？ー患者さんの質問に対してー」の各セッションについて、委員の先生方よりご講義いただきました。受講者は熱心に聴講し試験に臨み、第64回・第65回ともに全員が合格しました。これにより、合計462名の新たなホワイトニングコーディネーターが誕生しました。

ホワイトニングコーディネーター制度は、ホワイトニングに関する基礎的知識を修得し、適切な情報提供やアドバイスができる人材を育成することを目的としてはじまり、現在、登録者数は2980名（2025年10月2日時点）となっています。

近年では、新しいホワイトニング材が次々と認可・発売される一方で、いわゆるセルフホワイトニングが広がりを見せています。これにより、“医療ホワイトニング”との明確な区別がこれまで以上に求められるようになっています。

こうした現状を踏まえ、第64回よりテキストを第15版として全面改訂し、最新のホワイトニングの基礎と臨床を学べる講習を実施しました。講習後には恒例となっている受講者個別の質問

ホワイトニングコーディネーター委員メンバー

対応を行いましたが、今回も多くの受講者が列をなし、日々の臨床における疑問を熱心に相談されていました。多くの歯科衛生士の方々が臨床に真摯に取り組んでいることを改めて感じ、「ありがとうございます。明日からまたホワイトニングをがんばります。」といった前向きな言葉をいただくなど、委員一同にとって大きな励みとなっております。

なお、本学会ホームページの【ホワイトニングコーディネーター向け理事長メッセージ】にも掲載されていますが、ホワイトニングコーディネーターは歯科医療行為としてのホワイトニング、すなわち“医療ホワイトニング”を対象とした制度です。医療ホワイトニング以外の場でホワイトニングコーディネーターの名称を使用したり、ピンバッジの着用や認定証の掲示を行うことはすべて禁止されています。講習会でも周知を徹底しておりますが、会員の歯科医師・歯科衛生士の皆様におかれましても、趣旨のご理解とご指導をお願いいたします。

ホワイトニングコーディネーターの登録有効期間は3年間です。認定者の皆様には、学術大会や学術委員会主催のセミナーなど、ホワイトニングを学ぶ機会を積極的に活用していただき、知識を更新し日々の臨床に役立てていただければ幸いです。

第66回以降のホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験の情報は、学会ホームページにて随時ご案内しています。毎回、多くのお申し込みをいただき、早期に定員に達する状況が続いております。

会員の皆様方におかれましては、ぜひ資格取得を希望される歯科衛生士への情報提供をお願いいたします。

第64回ホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験
（2025年7月20日　会場：日本歯科大学）

学術講演統括委員会

本委員会では、審美歯科領域における学術的交流のさらなる活性化を図るとともに、歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士がそれぞれの専門性を相互に高め合い、より円滑で質の高いチーム医療体制を構築することを目的として、定期的に学術セミナーの企画・開催を行っております。今期の学術講演委員会では、その活動テーマを「つなぐ」と掲げ、分野や職種、理論と臨床、経験と次世代を有機的につなぐことを意識した対面セミナーを、これまで以上に積極的に開催してまいります。対面ならではの臨場感や直接的な議論を通じて、日常臨床に直結する知見を共有する場を提供することを目指しております。

まずは、2026年（令和8年）3月8日（日）に、「貫く信念・つながる臨床 ― 審美修復の今とこれから ―」を主題とした講演会を開催いたします。本講演会では、菅原佳広先生（月潟歯科クリニック）ならびに大谷一紀先生（大谷歯科クリニック）をお迎えし、健全歯質を最大限に活かすコンポジットレジン修復治療の考え方と実際、さらにはマテリアルの進化に伴う治療技術の変遷について、豊富な臨床経験に基づいたご講演をいただく予定です。いずれの内容も、審美修復治療に日々向き合う臨床家にとって極めて実践的であり、講演で得られた知見が翌日からの診療に直結するものと期待されます。また、治療に対する信念や哲学を共有することで、審美歯科臨床の本質を改めて考える機会となることも、本講演会の大きな意義の一つです。さらに本委員会では、今後も外科・補綴・矯正などの分野を横断した複合的なセッションを継続的に企画し、専門領域を超えた知識と技術の融合を促進してまいります。こうした取り組みを通じて、「知と技をつなぐ」学術活動を展開し、審美歯科領域の学術的発展に引き続き寄与していきたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、本学会の活動趣旨にご理解とご賛同を賜りますとともに、今後開催される各種セミナーへの積極的なご参加を心よりお願い申し上げます。（委員長　新谷明一）

編集委員会

会員の皆様におかれましては、平素から「歯科審美」の発行にご協力頂いていること、とくに論文を投稿していただいていることに感謝申し上げます。編集委員会の基本方針である、原著論文の投稿数を増加させることは継続させていただいております。本学会が日本歯科医学会の専門分科会に移行するための必須事項であり、今後とも会員の皆さんからのご協力をお願いしたいと思います。また、認定医を取得された会員には、症例報告の投稿をお願いするとともに、多くの会員にも是非とも貴重な症例を報告い

ただければと考えております。
「歯科審美」は、第38巻1号の投稿論文から、投稿規定ならびに投稿の手引きを変更しております。これは、読者に分かりやすい誌面にすることが大きな目的であり、さらに時代に則したものとすることを目的としています。投稿にあたりましては、新しい投稿の手引きを参照いただければと考えております。また、手引きの内容に関して、変更すべき点がありましたら、事務局へ申し出ていただければ幸です。編集委員会では、そのような声を反映すべく、検討していく所存であります。
日本歯科審美学会の学術雑誌である「歯科審美」は、基礎実験あるいは臨床によって得られた知見をより多くの会員に広げることを目的としています。是非とも、誌面を通じて、多くの会員の新たな知見を喧伝いただくことを願っております。さらに、本学会では優れた論文に対する表彰制度もあります。是非とも、「歯科審美」の誌面を、学術的な議論を行う場として活用いただければと考えております。（委員長　宮崎真至）

国際渉外委員会

国際渉外委員会は、世界の審美学会と協力しながら、日本歯科審美学会の更なる発展を目的に活動しています。
国際歯科審美学会（International Federation of Esthetic Dentistry：IFED）の第14回大会は、韓国・ソウルのCOEXにて2026年11月13-15日に開催されます。そのイベントの一つとして、前年度に引き続きIFEDチャレンジが開催されます。これは各国のアカデミーを代表する歯科医師が、ケースプレゼンテーションを行い、トーナメント方式で優勝者を決めるというものです。日本歯科審美学会からは、堺貴彦（大阪大学歯学部口腔補綴科・リーダー）、菊地柊斗（日本大学歯学部歯周科）、大津雄人（茨城県開業）、指宿隆秀（東京都開業）、品川淳一（東京都開業）（敬称略）の5名の先生方が代表として参加されます。予選は来年１月から始まり、2026年11月14日に決勝戦が行われます。皆様、応援をお願いいたします。
加えてアジア歯科審美学会（Asian Academy of Aesthetic Dentistry：AAAD）につきましては11月21-23日に、マレーシア・クアラルンプールのInternational Trade and Exhibition Centre（MITEC）にて、AAAD後援のDENTISTRY UNPLUGGEDが開催され、若林国際渉外委員長、田上副委員長が参加しました。詳細は田上先生の記事をご覧ください。22日には役員会が開催され、マレーシアのDr.Nurul Huda Hasanが会長となり、次期会長候補副会長として、フィリピンのDr.Sonny Buriasが選出されました。引き続き行われた役員選挙にて、本学会からは若林が副財務担当となりました。次期大会については未定となっています。
また、韓国歯科審美学会（Korean Academy of Esthetic Dentistry：KAED）につきましては、11月16日に韓国・ソウルのCOEXにて、第38回韓国歯科審美学会が開催されました。JAEDからは小峰理事長、若林国際渉外委員長、中村国際渉外委員、伊藤恵吾幹事が参加し、小峰理事長が講演をされました。本大会では、次年度のIFED大会を見越し、海外からの演者が講演しやすいよう、母国語での講演およびAIを用いた同時通訳が試みられました。また第36回日本歯科審美学会学術大会にはKAEDより26名の先生方がこられ、5名の先生がポスター発表をされました。その中でLEE Jung-Jin先生がInternational Poster Awardを受賞されました。
その他の活動としましては、日本歯科審美学会、日本接着歯学会、日本歯科保存学会の三学会合同講演会「Insights into Excellence in Adhesive Restoration－from Italian Maestros接着修復の卓越に迫る－イタリアの巨匠たちの洞察」が、9月23日に日本大学歯学部にて保坂実行委員長のもと開催され、盛況のうち終了しました。本学会からは、私と高橋委員が準備委員として参加しました。
日本歯科審美学会が、世界の審美歯科学・審美歯科治療の発展のための主導的役割を果たすべく、国際渉外活動を展開して参りますので、皆様方のご協力をお願い申し上げます。
（委員長　若林一道）

国内渉外委員会

日本歯科審美学会では社会連携事業として平成22年度から歯科衛生士ならびに歯科技工士の養成校における歯科審美学の出張講義を実施しております。
2024年度は青森から鹿児島にわたる全国約50の養成校からご希望があり、2025年の2月末までに出張講義を実施しました。2024年度も歯科審美学の出張講義は好評であり、同じ講師の派遣を希望される養成校が多くみられました。この出張講義が契機となり、歯科医療を目指す学生に歯科審美学が正しく理解され、本学会の会員数増加につながることを願っております。
2025年度も歯科衛生士や歯科技工士の養成校に講義希望のアンケートを行い、全国で出張講義を実施しております。引き続き会員の先生方にはご協力をよろしくお願い申し上げます。
（委員長　中村隆志）

認定医審議会・認定医制度運営委員会

本年6月から新体制で、認定医審議会・認定士審議会が活動を始めております。その中で、9月11日に本年度第1回目の認定医・認定士口頭試問が行われました。これは書類審査を通過した受験生の方に対して、規定時間のプレゼンテーションを行っていただいた後に、質疑応答を行うという型式を採っております。

各受験生の方々も、御自身のプレゼンテーションを終えて少しホッとされた直後に、各委員からの質問が次々に飛んでくるという、緊張の連続であったことは否めません。おそらく学生時代以来、初めての口頭試問という方が殆どのことでしょう。なにを隠そう小職も、自身の認定医口頭試問時は9月の残暑という季節も相まって、汗だくで帰途に付いたことを記憶しております。

しかし、学生時分とは異なり?決して悪意ある質問が飛んでくるわけではないことを保証させていただきます。私共委員の立場としては、認定医・認定士としての質を担保すると同時に仲間を増やすことを念頭に置いて、「愛情ある質問」を心がけております。未取得の会員の皆様は臆することなく、ぜひ認定資格へのチャレンジを目指していただければと思います。

（委員長　柵木寿男）

表彰委員会

学術大会での優秀発表賞であるデンツプライシロナ賞についてデンツプライシロナ社様から申し出があり、2025年度をもってスポンサー企業を辞退されることとなりました。本賞に代わる表彰につきましては現在対応を協議しているところです。詳細が決まりましたら改めてお知らせいたします。

（委員長　髙田恒彦）

賛助会員一覧

相田化学工業株式会社
〒183-0026 東京都府中市南町6-31-2
Tel: 042-366-1201
http://www.aida-j.jp

石福金属興業株式会社
〒101-0047 東京都千代田区内神田3-20-7
Tel: 03-3252-8471
https://www.ishifuku-kinzoku.co.jp/

医歯薬出版株式会社
〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10
Tel: 03-5395-7630
https://www.ishiyaku.co.jp

Ivoclar Vivadent株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-24
Tel: 03-6801-1301
https://www.ivoclar.com/ja_jp

ULTRADENT JAPAN株式会社
〒151-0061 東京都渋谷区初台1-34-14
初台TNビル3F
Tel: 03-5365-1760
https://www.ultradent.jp/

クインテッセンス出版株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-6
クイントハウスビル
Tel: 03-5842-2270
https://www.quint-j.co.jp

クラレノリタケデンタル株式会社
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-4
常磐橋タワー
Tel（フリーダイヤル）: 0120-330922
https://www.kuraraynoritake.jp

サンメディカル株式会社
〒524-0044 滋賀県守山市古高町571-2
Tel: 077-582-9981
http://www.sunmedical.co.jp

株式会社ジーシー
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-14
Tel（カスタマーサービスセンター･お客様窓口）: 0120-416480
https://www.gc.dental/japan/

株式会社松風
〒605-0983 京都市東山区福稲上高松町11
Tel: 075-561-1112
http://www.shofu.co.jp/

ソルベンタム合同会社
〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-29
Tel（コールセンター）: 0120-332329
https://www.solventum.com/ja-jp/home/

デンツプライシロナ株式会社
〒104-0061 東京都中央区銀座8-21-1
住友不動産汐留浜離宮ビル5階
https://www.dentsplysirona.com

株式会社東京技研
〒158-0087 東京都世田谷区玉堤1-25-13

Tel: 03-3703-5581
http://www.tokyogiken.com/

株式会社トクヤマデンタル
〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9
イトーピア清洲橋通ビル7F
Tel (フリーダイヤル) : 0120-54-1182
https://www.tokuyama-dental.co.jp

Haleon ジャパン株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1
赤坂インターシティAIR
Tel: 03-4511-8732
https://www.haleonhealthpartner.com/ja-jp/oral-health/

ペントロン ジャパン株式会社
〒140-0014 東京都品川区大井4-13-17-5F・6F

Tel: 03-5746-0316
https://www.j-pentron.com/

ホワイトエッセンス株式会社
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-12-18
渋谷南東急ビル11F
Tel: 03-6434-1330
https://www.whiteessence.co.jp/

株式会社メディカルネット
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1-34-14
宝ビル 3階
Tel: 03-5790-5263
https://www.dentwave.com/

株式会社茂久田商会
〒650-0047 神戸市中央区港島南町4-7-5
E-mail: info@mokuda.co.jp
在庫確認: mokuda.biz
https://www.mokuda.co.jp/

株式会社モモセ歯科商会
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町6-35

Tel: 06-6773-3333
http://www.momose-dm.co.jp

株式会社モリタ
〒564-8650 大阪府吹田市垂水町3-33-18

Tel: 06-6380-2525
http://www.dental-plaza.com

株式会社モリムラ
〒110-0005 東京都台東区上野3-17-10

Tel: 03-5808-9350
http://www.morimura-jpn.co.jp/

株式会社ヨシダ
〒110-8507 東京都台東区上野7-6-9

Tel (コンタクトセンター) : 0120-178-148
http://www.yoshida-dental.co.jp